

京大病院リスクマネージャーのみなさま、こんにちは。
医療安全管理室の松村です。
リスクマネージャーマガジンでは、医療安全部門とリスクマネージャーをつなぐ媒体です。

今回は「**2025 年度の医療安全管理の目標**」について取り上げます。

そもそも・・・なぜ目標を設定する必要があるのでしょうか。

医療安全管理は、組織全体で取り組む行動です。医療安全管理部門は、病院の職員のみなさんが、医療安全に取り組むことができるような土壌づくりをしています。

「よい作物」が「安全で安心な医療」だとしたら、「作物が育つ土壌」は、「安全文化」が浸透している状況だといえます。

京大病院の医療の状況はどうでしょうか。

- ・新しい医療が導入される（＝不確実性がある）
 - ・患者には複合的な病態があり、それぞれが重症であることも多い
 - ・様々な医療者が治療に関わる
- このような状況は、ハイリスクの状況です。

ハイリスクの状況でも、うまくリスクを管理し、事故がおこらないようにできている組織を「**高信頼性組織**」といいます。

私たちが高信頼性組織であるためには、一人ひとりが、自分の行動を客観的に見つめて、その医療やケアは、その患者にとって必要であるか、害が起こらないか、を考えることができればよさそうですね。

そのためには、リスクについての専門家である医療安全管理部のスタッフが、医療技術やケアの専門家である現場の医療者に、なぜ、その行動を選択したのか？という問いかけをすることができます。

言葉にすることを「言語化する」といいます。言語化することに取り組みつつ、安全を意識できるようにあることを目指します。

そのため、2025 年度の医療安全目標は、
「**医療安全のための対話づくり**」としました。

今年度は、診療科や部署・部門の訪問を通じて、医療安全の土壌作りに取り組みます。
最後に、対話を促進するための「**6つの帽子**」の話で締めます。

2025年度
医療安全目標
医療安全のための
対話づくり

エドワード・デ・ノボは、心理学の専門家です。

彼の提唱した6つの帽子を紹介します。
議論をする際、あえて各自に異なる視点を意識してもらいます。その立場になり切って、意見をいうための工夫です。



白：中立的視点



赤：感情的視点



黒：批判的・消極的視点



黄：希望的・積極的視点



緑：創造的視点



青：冷静的・思考プロセス的視点

医療安全管理室スタッフは、あえていろんな帽子をかぶって、思考が広がるようにしています。